

HW I P 企画運営委員会 教務報告

1. HW イノベーション創出論 (1年次後期、必須)
 - ・各種分野の企業や研究所からの講師による講演(後期開講) →10/3～開催
2. HW セミナー (1年次、必須)
 - ・HW 合宿：四条畷の研修施設にて実施済み
 - ・研究室ローテーション：7月から11月にかけて実施 →実施中(よろしくお願い致します)
3. HW 領域基礎研究 (1年次、必須)
 - ・HW イノベーション入門：Clic による産学講義と、企業訪問 +ライティング
→今年度終了、別紙報告
4. HW 融合領域研究 (2年次、必須)
 - ・アウトリーチ：未来館コミュニケーターによる講義と実践(7/18, 9月, 11月→シンポ)
→今年度シンポ以外は終了、別紙報告
5. HW 融合領域プロジェクト研究 (3年次、必須)
HWPI 融合領域プロジェクト研究 (4年次、選択)
 - ・HW 学生主体融合領域研究支援 →2件の研究実施中
6. HW イノベーション実践演習 (3年次、選択)
 - ・プログラム参画企業によるOJT →試行実施中(産連委員会)
7. HW インターンシップ (3年次、必須)
 - ・前倒しで受付中 →単位該当者は未だが、何人かインターンに参加(産連委員会の取計い)
8. HW 基礎論Ⅰ・Ⅱ (1年次、選択)
 - ・特任教員による座学 →Ⅰは終了。Ⅱは10/3～。
9. 学生アドバイザリ委員会(メンターを兼ねる)
 - ・8月ごろにメンタリングを主目的に、11月ごろに評価を主目的に、年二回実施。
→非常に学生のためになっていると思われます。皆様ありがとうございました。
10. 学生企画
 - 新規企画「ビジネスモデルに関するワークショップ」が本日10/2に開催(実施後報告)
11. その他
 - HW 教員セミナー(石黒先生)、別紙報告
今後も学生に希望をとりつつ、年3回ほどで運営予定。ご協力よろしくお願いします。

* 講義の流れ

研究：領域基礎(1年)→融合領域(2年)→プロジェクト研究(3年)→PI研究(4年)

産業：入門(1前)→創出論(1後)→アウトリーチ(2年)→実践演習(3年)・インターン(3年)

* 各カリキュラム説明やイベント詳細はHW サブローカルサーバにあります。

<http://student.humanware.osaka-u.ac.jp/sublocal/sindex.html>

HW イノベーション入門：産学講義と企業訪問+ライティング

2014 年 8~9 月、大阪大学+企業訪問、M1 必須講義

イノベーション創出論において、様々な業界の重鎮からの話を聞く前に、産業界について学ぶもの。専門分野の異なる複数の学生がチームを組み、産業界の一線で活躍されている方々との面談の中から産業界の視点を学ぶとともに、これにより得た知見と、異分野履修生間での徹底した議論に基づいて新しい価値の創造に挑戦する。これはヒューマンウェア領域基礎研究の一部。

経緯

昨年度、色々な問題があり、今年度は、目的をクリアにして、また産学連携 Clic と密に相談することで、講義をくみ上げた。(問題例：企業を介することで対外的な責任の所在が曖昧になった。学生の希望が通らなかった、レポートを出したのに受理されてなかった、講師が用意をしてこなかった、イノベーションや価値創造について何も取り上げられなかった、お金がかかるが HW 側の労力は増えた、等)

内容 1：産学講義（座学）

松尾先生により、企業とは何か（意義、目的、組織構成など）や、企業におけるイノベーションの必要性、人材について、および社会ルールや会話のこつ（一般マナー、話の進め方、相手の見分け方、等）などを教えていただいた。

講師：松尾誠二先生

| 肩書き | 経歴 |
|-------------|------------------------|
| Clic 特任准教授 | 大阪大学特任准教授 /現在 |
| カデット特任准教授 | キャリアドウ代表 /現在 |
| キャリアドウ代表 | 株式会社リクルート /1987~2005 年 |
| キャリアコンサルタント | 同志社大学法学部 /1987 年卒業 |



内容 2：企業訪問

研究科の異なる 2~3 人の 8 グループに分かれ、8 社に訪問し、1 時間程度のインタビューを行った。

参画企業（今からお礼をするところです・・・）

| HW 連携企業 | 学生希望+英語対応企業（Clic 吉田先生の仲介） |
|-----------------------|--------------------------------------|
| NTT/企画部長 芳賀 | Yamaha/開発本部本部長、長谷川豊様 |
| 日立/横浜研究センター長、赤津雅晴様 | 大林組/宇宙エレベーター幹事 石川洋二様 |
| オムロン/技術・知財本部長、荒尾眞樹様 | 島津/基盤技術研究所副所長、西本尚弘様 |
| 堀場製作所/理事・開発副本部長、臼井誠次様 | Eli Lilly/医学科学本部長 Dr. Pierre Berclaz |

内容 3：最終講義

8 チームが企業を訪問した内容を踏まえ、「自分たちはどのようなイノベーションを起こしたいか、起こせるか」について発表し、その後、全員で議論した。

今後：来年度以降も Clic の了解を得て、講義などをしてもらえることになりました。

ライティング：アドバイザリ委員などもあり、早い時期でライティングの基礎を教える必要がある。このため、今年度は田中先生にライティングの講義を依頼した。

アウトリーチ

2014 年 8~9 月、大阪大学、M2 必須講義

科学コミュニケーションの歴史から現在に使用される具体的手法までの知識を網羅する座学を受け、さらに「人に伝える」ことのワークを含む講義を受ける。この後、学内で学部生などに向けて実践的にアウトリーチを行い、さらに学外で企業などの人に向けてアウトリーチを行う。これはヒューマンウェア融合領域研究（下記）の一部である。

目的：本プログラムでは科学・社会の発展や新産業の創造に資するグローバルリーダーを育成することを目的としている。この目的を達成するためには、人間ネットワークを自ら形成してチームを牽引できる必要がある。そのためには、多くの人を動かす能力や、多くの人に活動を伝えて評価を得る能力など、あらゆる形でサポーターや理解を得る能力が必要である。このような能力を養うため、本講義を行う。これには伝え方だけでなく、伝えるための会などの催し方も含める。また、伝える基礎を学ぶことは、専門の研究発表の基礎としても大いに有用となる。

経緯：特任教員と、JST 未来館の科学コミュニケーターの森田先生と、CSCD で HW 参画教員の八木先生とで相談し、講義内容、および最適な時期を組み立てた。

内容：科学コミュニケーターによる講義→学内アウトリーチ→学外アウトリーチ（シンポジウム）

講師：森田先生（PhD、未来館・世界一受けたい授業）、関谷先生（PhD、JST コミュニケーター）

今後：来年度以降もお二人の了解を得て、講義などをしてもらえることになりました。



HW 教員セミナー（石黒先生）

2014 年 9 月、大阪大学、参加自由

履修生から、プログラム担当教員によるセミナーを開いてほしいという要望が昨年度から多くある。本プログラムは融合領域研究を行える人材育成を目標としており、履修生にとって、様々な分野の教員の世界トップクラスの研究に触れ、刺激を受けること、教えを乞うことは、大きなメリットの一つと考え、セミナー・シリーズを企画する。履修生以外にとっても、そのセミナーは貴重な機会であるため、プログラムに参画する専攻に公開することで参画する専攻の研究・教育の活性化が期待される。

目的

- 履修生に対する教育
- 履修生やプログラム参画者が身内を知るきっかけになる
- 3 研究科参画専攻全体の研究活性化
- 融合領域研究・共同研究の推進

内容

石黒先生によるセミナー「アイデアの創出について」（2 時間程度）が行われた。ご自身の体験とともに、アイデアの創出について、他では聞けない大変貴重な話だった。



文理融合等および石黒研において、懇親会が開かれた。大変な盛り上がりのあと、アンドロイドカフェも見せていただいた。



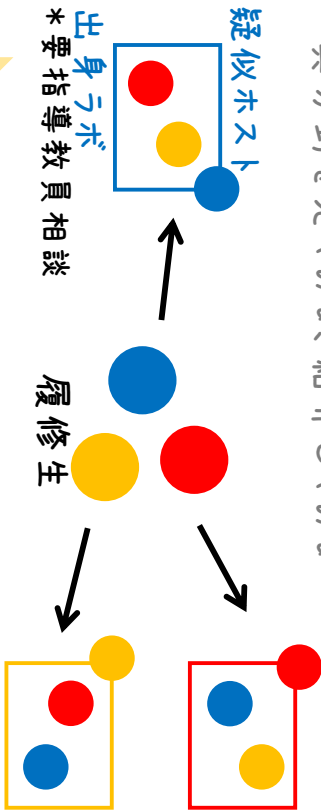
総じて、学生にとって得るものが大きく、さらに、親睦も深まり、大変有意義だった。

今後

今後も前回の提案（清水先生より）にしたがい、学生からの希望をとりつつ、定期的に行っていきたいです。ご協力、どうぞよろしくお願い申し上げます。

研究室ローテーションとは

～異分野を見てみる、紹介してみる～

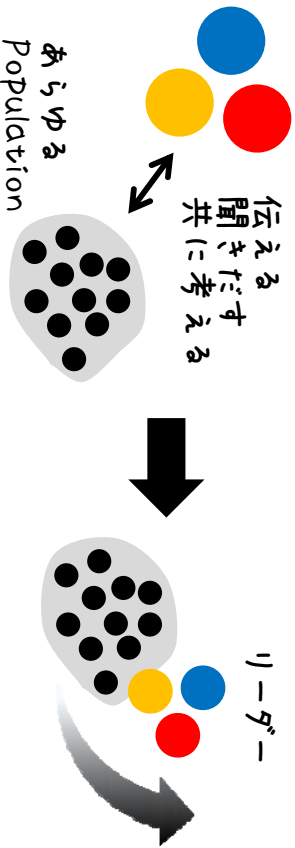


計3日 各ラボに1日以上

- ・指導教員に誰か来るかを伝え、訪問日を相談
- ・ラボ内で何をするかは疑似ホストが主に考えるのが望ましい。(指導教員と相談)
- ・2期生以降は他ラボアドバイザーのラボを含むので顔合わせできることが望ましい。

アウトリーチ講座とは

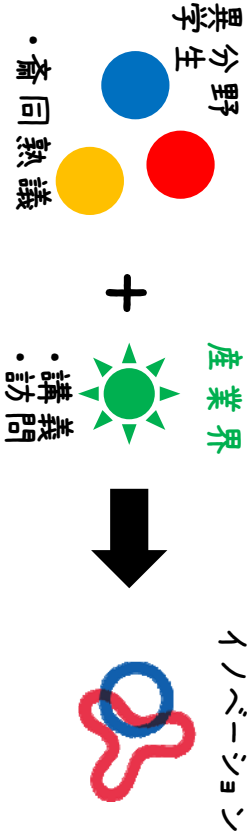
～伝え、聞きたい、多くの人を動かす実践～



1. 未来館&JSTのコミュニケーターによる講義 (1日)
2. 学内でのアウトリーチ/完全学生運営 (学部3・4年生に向けて) (1日)
3. 学外でのアウトリーチ(今年度はシンポ) (1日)

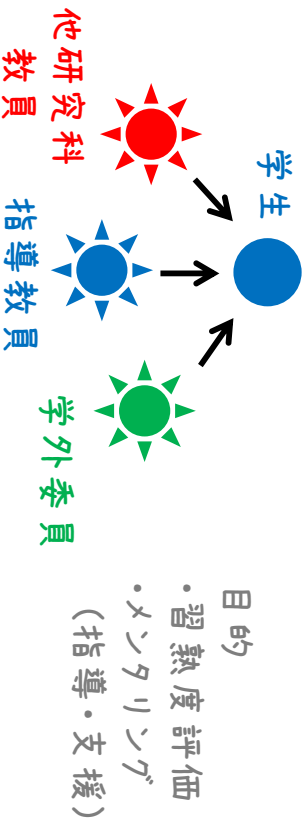
イノベーション入門とは

～分野融合に産業界の視点をプラスしてみる～



1. 産学講義 (by CLIC松尾准教授) (1日)
2. 企業訪問 (チーム) (1日)
3. チーム奇同熟識
「自分たちはどんなイノベーションをおこなうのか？」 (任意)
4. 全員奇同熟識 (1日)

学生アドバイザー委員会とは



- 年二回開催
1. Pre-QE
 2. R-QE
 3. R-QE
 4. R-QE
 5. 最終試験 (+簡易メンタリング)
- 目的
- ・習熟度評価
 - ・メンタリング (指導・支援)